北海道におけるサイクルツーリズムの推進

国土交通省北海道開発局建設部道路計画課

1　はじめに

北海道は、豊かで雄大な自然環境や生産活動の中で形成された農村風景、独自の歴史･文化、多様な都市、安全で高品質な農水産物等、アジアの中でも特徴的で魅力的な観光資源が存在しています。

北海道が今後も持続的に発展していくためには、こうした強みを活かし、国内外からの来訪者の受入環境等の整備や、多様な観光メニューの充実等により、北海道の魅力をさらに磨き上げていくことが重要です。

そこで、北海道開発局と北海道および北海道商工会議所連合会､北海道観光振興機構､シーニックバイウェイ支援センター、北海道運輸局により「北海道サイクルルート連携協議会」を設置し、アジアの中でも特徴的で魅力的な北海道の観光資源を活かしながら、サイクリングを楽しめる環境を高めていくことを目的として、官・民をはじめ多くの関係者が連携・協働する取り組みを推進しています。

2　背景と経緯

2016年に閣議決定された第８期北海道総合開発計画において、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成し、豊富な地域資源とそれに裏打ちされたブランド力など、北海道が持つポテンシャルを最大限に発揮させることにより「世界の北海道」を目指すこととされました。

また、全国的には、2017年に自転車活用推進法が施行され、これに基づき策定された自転車活用推進計画では､「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」に向けて取り組むことが位置づけられました。

こうした中、2017年に「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」を設置し、アジアの中でも特徴的で魅力的な北海道の観光資源を活かしながらサイクリングを楽しめる環境を高めていくための検討に着手し、2017～18年度の２年間、試行を実施しました。

この試行結果を活かした取り組みを本格展開するため、2019年に官民および多くの関係者が連携・協働する枠組みを構築し、北海道における世界水準のサイクリング環境の実現に向けて、安全で快適な自転車走行環境の改善、サイクリストの受入環境の充実、情報発信等の取り組みを推進する体制を整えました。

2024年に閣議決定された第９期北海道総合開発計画において、観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくりに向け、世界基準のサイクルツーリズムを推進し、世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充を図ることとしています。

3　推進の枠組み

上記を踏まえ、2019年８月、全道的な体制として多くの関係機関からなる「北海道サイクルルート連携協議会」を設立しました。

北海道サイクルルート連携協議会においては、目指す姿や具体的な取り組み方法を示す共通の指針として「北海道のサイクルツーリズム推進方針」を策定しました。また、策定した推進方針に則（のっと）り、北海道サイクルルート連携協議会と連携・協働して、質の高いサイクルツーリズムを提供する「ルート協議会」を募集しました。ルート協議会は、各地域の民間団体、サイクリスト、行政等により構成され、サイクルツーリズムに関する各種取り組みを実践する活動団体となり、令和６年４月現在で10箇所のルートが登録されています。

2019年11月には、連携協議会の下に有識者による「アドバイザリー会議」を設置し、各ルート協議会との意見交換や現地視察を通じて、先進的なサイクルツーリズム環境の実現に向けた広範な助言を頂いています。

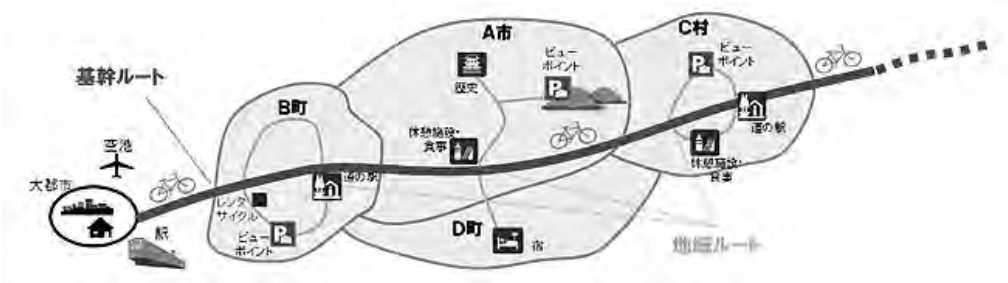
北海道内で取り組むルート協議会

アドバイザリー会議の開催状況

4　北海道のサイクルツーリズムの目指す姿や具体的な取り組み

(1)　基本的な考え方

各地域のサイクルルートは「基幹ルート」と「地域ルート」により構成することとしました。「基幹ルート」は、広域にわたり都市間を移動する骨格となるルートであり、空港や駅、大都市と目的地を結ぶルートで、セルフガイドでの走行を想定しています。「地域ルート」は、ビューポイントや地域特有の魅力を巡るルートであり、それぞれの地域の奥深さを体感してもらえるよう工夫したコースを想定しています。



「基幹ルート」と「地域ルート」のイメージ

⑵　各ルート等で提供されるサービス

各地域において、関係機関連携のもと、以下について取り組んでいます。

＜走行環境＞

サイクリストがセルフガイドで迷わず安心して走行できるよう、右左折で分岐する交差点や単路部などの全線で統一的なルート案内や、安全かつ安心して走行できるよう、主要な交差点や急カーブの手前、トンネルの手前で、路面表示による安全対策を実施。

交差点での分岐表示

路面への通行一明示

＜受入環境＞

サイクルラック、トイレなどが備えられている休憩施設を一定間隔で設置。また、緊急時のサポート体制を確保。

サイクルオアシス
（ニセコ除雪ステーション：サイクルスタンド設置状況）

サイクルオアシス
（ニセコ除雪ステーション：休憩スペース（屋外）設置状況）

パトロール車への工具等の配備

＜情報発信＞

ルートの魅力や休憩施設等の情報発信やサイクリストからの意見を把握。

スポット情報

PR動画作成

フォトコンテストの実施

5　世界水準のサイクリング環境の実現に向けて

北海道サイクルルート連携協議会、ルート協議会では、これまでの各取り組みとして、前述した走行環境の整備、受入環境の充実、情報発信のあり方の検討を進めています。

2024年度の主な取り組みとして、走行環境に関しては、国道38号（南富良野町）、国道236号（更別村）、国道238号（稚内市）、国道240号（釧路市）等で安全・安心な自転車利用環境創出のための自転車通行空間整備を進めています。受入環境に関しては、セコマグループとの連携によるサイクルルート沿いのセイコーマート店舗における「サイクルラック」の設置、工具や空気入れを搭載した道路パトロールカーによりサイクリストをサポートするサイクリスト応援カー、自転車積み込みによるサイクルトレインのモニターツアーへの参加等に取り組んでいます。情報発信に関しては、各種イベントの開催やイベントでのPR、プロモーション動画の作成、サイクリストに訪れてもらうためのきっかけづくりとしてフォトコンテストの開催等に取り組んでいます。

セイコーマート店舗に設置されたサイクルラック

北海道内では10箇所のルート協議会によるサイクルルートが道内各地で活動しています。

そのうち2021年５月31日に「トカプチ400」が、自転車を通じて優れた観光資源を有機的に連携するサイクルツーリズムの推進により、日本における新たな観光価値の創造、地域の創生を図り、世界に誇りうるサイクリングルートである「ナショナルサイクルルート」として、北海道で初めて指定されました。

また、2023年度には10箇所目として、津軽海峡・日本海・太平洋を８の字で結ぶルートに奥尻島を加えた全長約459km のサイクルルートで、世界文化遺産の「北海道･北東北縄文遺跡群『垣ノ島遺跡、大船（おおふね）遺跡』」、日本遺産の歴史的建造物群を有する「いにしえ街道」などの歴史や大沼国定公園、活火山恵山（えさん）、オクシリブルーの海などの風景を楽しみながら巡る「どうなん海道サイクルルート」が新たに加わりました。

北海道における世界水準のサイクリング環境の実現に向けて、多くの関係機関や各ルートの皆様方とこれからも連携し、サイクルツーリズムを通じて多くの方々に北海道を訪れてもらえるよう、今後も引き続き、積極的に取り組みを進めていきます。